

滋賀森林インストラクター会

会報・第29号

2021年12月26日



サネカズラの実(さね) (甲賀市田村神社にて 2021.11.14)

目次

1. 比良比叡トレイル協議会によるガイド養成研修会	水田 有夏志	2~4 頁
2. 日本産モチノキ科の仲間を殖やす工夫	小西 民人	5 頁
3. こども水源の森サミット	高田 裕美子	6~7 頁
4. 令和3年度緑の少年団サポート事業の実績	事務局	8 頁
5. 2021年度の定例研修会を総括して	小西 民人	9~10 頁
6. フィトンチッド研修会開催報告	高橋 優	11 頁

～比良比叡トレイル協議会によるガイド養成研修会～

水田 有夏志

比良比叡トレイルは天津市坂本から高島市朽木を結ぶ約50キロメートルの山岳ルートで、コース上には比叡山行者道、仰木や伊香立の山々、比良山系の蓬莱山、武奈ヶ岳、蛇谷ヶ峰などの峰々があり、豊かな自然と歴史文化遺産を擁しています。

比良比叡トレイル協議会は、山岳団体、企業、観光協会、研究機関などが構成員となり、コースの整備、道標の設置、トレイルマップの制作などに取り組んでこられました。しかし、一般登山者の利用だけではコースの有効活用が十分ではないとして、エコツアーを通じた小中高生への森林体験や環境学習を計画されています。そこで、主要な構成団体である滋賀県山岳連盟の会員を対象としたガイドの養成に取り組まれることになり、このたび滋賀森林インストラクター会はその指導の要請を受けました。研修の方針、内容、進め方等について、トレイル協議会の小川隆氏と何度か打ち合わせを行い、10月に比叡山編として行者道で、また11月に比良山編として葛川の明王谷林道で研修会を開催することになりました。



トレイルマップ

比叡山行者道は、全国会の研修会をはじめこれまでに何度かイベントを実施しており、また、日本森林インストラクター協会が選定した『日本の森100』に滋賀県から推薦した経緯もあり、当会がガイドのノウハウを有するコースの一つです。

10月2日に佐々木会長、高橋事務局長、私とトレイル協議会の3名の方々による現地下見を行い、10月31日の本番を迎えました。前日は激しい雨が降り、家を出る頃はまだ小雨がぱらついて実施が危ぶまれました



が、集合場所の横川駐車場に着く頃には晴れ間も出てきて、色づいたイロハモミジが鮮やかに陽に映えています。

シャトルバスで東塔へ移動し、県内各地から集まった滋賀県山岳連盟の傘下にある山岳団体の参加者約30名がA班（小西、水田）とB班（佐々木、高橋）の2班に分かれて出発しました。まず、大講堂で延暦寺の小鴨覚俊総務部長から比叡山延暦寺の成り立ちや伝教大師の教えについてお話を伺いました。続いて一隅を照らす会館で根本中堂の大改修のビデオを鑑賞し、その後、いよいよコースを歩き始めます。下見の時に見られたミカエリソウはほとんど花が終わっていましたが、見返るほど美しいとい

う説明に「なるほど」と頷く参加者と「？」という反応と・・・。

おなじみの弁慶水でスギの巨木やここが琵琶湖の水源の森であることを確認しながら、比叡山で最も神聖な場所である浄土院へ。伝教大師廟の前に植えてあるお釈迦様ゆかりの樹木、ボダイジュとシャラについて説明しました。

ここからは一般道から逸れて本来の行者道を進みます。この道は現地下見で小川事務局長に教えていただいたもので、細い道の両脇に立ち並ぶスギの巨木の足元にスギゴケ、ヒノキゴケ、ク라마ゴケなどが覆い、比叡山らしい雰囲気漂っています。道は椿堂で一般道と合流し、にない堂を経て釈迦堂に到着。ここで昼食を摂り、峰道レストラン、玉体杉、終点の横川駐車場へと歩を進めていきます。この間、中間温帯の代表選手であるモミ、アセビとシキミとミヤマシキミの有毒三兄弟、植栽されたブナ並木、オトコヨウゾメの赤い実など、このコースの定番の説明に参加者の反応も良く盛り上がりしました。



ミカエリソウ



スギの巨木が並ぶ行者道

続いて11月7日に佐々木会長、高橋事務局長、小西さん、私、小川事務局長の5名により葛川の明王谷林道で現地下見を行い、11月28日に本番を迎えました。この日も前日は雨で、比良山系の中腹から上は雪に変わって白くなっていました。朝もやの立ち込める中、大津市役所葛川支所の駐車場にはすでにたくさんの登山者が出発の用意をしています。参加者の皆さんは前回と同じように2班に分かれ、明王谷林道に入っていきます。このコースは以前、NHKカルチャー講座のフィールドとして当会が利用したことがあり、豊かな自然と比叡山の回峰修験の道場である明王院や三の滝などの文化遺産が一体となって融合しています。特に樹木の種類が豊富で、ガイドネタに不足することのないおもしろいコースであり、研修会には最適です。

歩き出してすぐに現れたのはイロハモミジ、オオモミジといったカエデ属でした。「カエデとモミジはどう違うのですか？」の質問に「いずれもムクロジ科カエデ属ですが、何とかモミジと呼ぶのはイロハモミジ、オオモミジ、ヤマモミジの3種だけで、あとは何とかカエデと呼びます」と説明。



カエデの仲間メグスリノキの葉

ところが「イロハモミジのように切れ込みのある葉だけではありませんよ」との説明に「？」の反応……。しかしこの後、ウリカエデ、チドリノキ、メグスリノキが登場したので納得してもらえたようです。

林道を登っていくと、真っ赤な実が枝いっぱい房になって垂れ下がっているのが見えました。下見でも確認していたイイギリです。なかなか見られない光景に、参加者の皆さんもスマホで撮りまくりです。



イイギリの実



イイギリの説明

林道の法面ではドクウツギを発見。ドクウツギはドクゼリ、トリカブトと並んで日本三大有毒植物の一つだそうです、岐阜県や長野県では普通に見られるようですが、滋賀県では非常に珍しい植物です。

この後もミズメの樹皮のサロメチール臭を嗅いでもらったり、トチノキの冬芽のネバネバに触れてもらったりしながら、牛コバを経て白滝谷の自然林に入ります。白滝谷の溪流沿いにはサワグルミ、トチノキ、カツラ、ケヤキなどの落葉広葉樹の美しい森が広がっており、少し広場になった場所でランチタイムです。下見の時にはトチノキやケヤキ、ヒナウチワカエデの紅葉が見られましたが、ほとんどの



白滝谷の広場



三の滝

木は葉を落とし、明るい日差しが落ち葉の積もった地面に差し込んでいました。午後からは三の滝に寄り、前日の雨で水量が増して激しく落ち込む白い水や信者が納めた参籠札を見ることができました。最後に明王院の本堂を見学し、茶房で反省会をして2回の研修を終えました。

比良比叡トレイル協議会にはすでにガイドのオファーも来ているとのことで、反省会ではガイドの心得や注意事項などが確認されていました。この後、他の講師による研修会が計画されており、研修の成果を生かしてガイド活動を実践されることになります。比良比叡トレイル協議会のガイドの皆さんのご活躍を期待するとともに、今後も両会のつながりが継続され、連携が深まることを期待しています。

～日本産モチノキ科の仲間を殖やす工夫～

小西 民人

モチノキ科の樹木はすべて雌雄異株で、雌の木のみ実をつける。この場合、黒く熟すイヌツゲ以外はすべて赤く熟す。この実が熟すと赤くなるモチノキ科樹木について考察を試みた。(なお、赤という色は鳥がよく識別し、鳥を誘うための色であり、赤色の実が多いのは、鳥に食べさせてその種子を糞として運ばせるためと考えられる。)

モチノキ科の実には鳥にとっても例外なく不味い。鳥は美味である他の科の赤い実を優先的に食し、モチノキ科の実が食料の少なくなった冬を中心に多く食べているようだ。それも不味いため一時に多食せず、少しずつ食べて、いろんなところに糞をする。これによってモチノキ科の樹木はその子孫を広範囲に広げ、養分や光の取り合いを回避することができている。以下、落葉性の種類と常緑性の種類に分けて考察しまとめてみた。

(1) 落葉性のもの アオハダ、ウメモドキ、ミヤマウメモドキ、タマミズキ

葉を落とすので、赤い実は鳥によく目立つ。ほとんどの落葉性の種類は果柄が短く、長い果柄というさらなるコストをかけない。

例外は、フウリンウメモドキで果柄が長い。葉という鳥の足場がないので食べられにくく、稀な樹木であることはこのことに起因するのかもしれない。

(2) 常緑性のもの

- ① 果柄が長いもの 葉が赤い実の存在を目立たなくするので、果柄を伸ばして鳥によく見えるようにしている。実は少なめ。葉は鳥の足場になる。

ソヨゴ、クロソヨゴ、アカミノイヌツゲ、ヒメモチ

- ② 果柄が短いもの 葉の存在により、目立ちにくいので次のような工夫をしている。

ア. 実を大きくして目立たせる。実は少なめ。 モチノキ

イ. 小さな実を沢山つけて目立たせる。 クロガネモチ、ナナミノキ、
ツゲモチ、シイモチ、タラヨウ



アオハダ



フウリンウメモドキ



クロソヨゴ



タラヨウ

～令和 3 年度 こども水源の森サミット～

—甲賀市田村神社樹木観察—

高田 裕美子

令和 3 年 11 月 14 日（日）滋賀県第 72 回全国植樹祭滋賀県実行委員会が主催するイベント「こども水源の森サミット」が開催されました。

県内各所から緑の少年団 106 名、引率者 38 名が参加しました。

会場は甲賀市土山室内運動場。

午前中は各緑の少年団の活動報告会や「緑の募金・緑化推進」標語コンクール表彰・全国緑の少年団優良賞表彰、クイズ大会が行われました。

今回、滋賀森林インストラクター会は午後からの田村神社の森の樹木観察会の担当で、会員 11 名が観察ガイドとして参加しました。

下見の時に紹介する樹木にリボンをつけて準備しました。

樹種が豊富なため 2 時間ほどのコースです。

約 1 時間で主な樹木を説明しなければならないのでこの方法は有効でした。



県職員の方との打合せで、本日の参加人数、担当するグループを確認しました。



20グループ（100名超の団員と引率者37名）が最初に自然観察をするグループと木工工作をするグループに分けられました。



子供たちだけでなく引率者も五感をいっぱい使って観察をしていただきました。



ヤブムラサキやヒノキゴケの感触に感動！！

モチノキの赤やネズミモチの黒紫、ムラサキシキブの紫の実、サネカズラの実の様々な色にはとても興味をもってくれました。



森の中のフユイチゴは豊作で、子供も大人も美味しくいただきました。

シロダモやヤブニッケイなどの匂いの違いにも楽しんで頂けたようです。

檜皮を採取されたと思われるヒノキが神社の森には十数本あり、檜皮葺についての説明をすることができました。



またスダジイやウラジロガシなどのドングリを集め秋の恵みを楽しみました。



あっという間の1時間でした♪

～令和 3 年度緑の少年団サポート事業の実績～

事務局より

滋賀県緑化推進会委託事業である「緑の少年団サポート事業」は今年度で8年目になりました。昨年から続くコロナ禍にも、多くの方に参加をいただき、ほぼ例年通りに実施できました。今年の緑の少年団指導者研修会は野外活動の安全管理をテーマで説明しましたが、参加者のアンケートによると好評でした。少年団の個別指導も5件実施しています。その実績一覧を掲載します。

【指導者研修会】

開催日	開催場所	参加者数	滋賀会講師
7月27日(火)	甲賀地区：鹿深夢の森	22	佐々木建雄、下川茂 梶谷栄治、高橋優
7月31日(土)	南部地区：びわこ地球市民の森	7	佐々木建雄、森上記子
8月4日(水)	甲賀地区：鹿深夢の森	7	小西民人、森上記子
8月5日(木)	湖北地区：ウッディパル余呉	9	下川茂、橋本啓子、平田明
8月17日(火)	湖北地区：きゃんせの森	5	下川茂、橋本啓子
8月23日(月)	高島地区：ビラデスト今津	5	梶谷栄治、佐々木建雄、 前田康弘
8月24日(木)	中部地区：高取山ふれあい公園	4	小西民人、高橋優
10月30日(土)	中部地区：河辺いきものの森	6	水田有夏志、小西民人

【緑の少年団個別指導】

開催日	少年団	団員数	滋賀会講師
10月5日(火)	甲賀市柏木小緑の少年団	33	下川茂、森上記子、高橋優
10月14日(水)	甲賀市綾野小緑の少年団	73	下川茂、森上記子、 佐々木建雄、高橋優
10月23日(土)	守山市緑の少年団	20	梶谷栄治、高橋優
11月29日(月)	米原市山東小緑の少年団	22	小西民人、関澤友規子
12月13日(月)	甲賀市佐山小緑の少年団	15	小西民人、森上記子

参加していただいた講師の皆さん、ご協力ありがとうございました。

～2021年度の定例研修会を総括して～

研修担当 小西 民人

今年度の定例研修会は奇数月に開催する年度に当たりますが、同じ場所での研修でないので、研修地に適した時期を勘案して、年4回実施を目標にしました。担当を4人決め、特別回がある場合は小西が担当することとし、それぞれの担当の考えから研修場所・時期が選択決定されました。ただ、コロナ対策と季節・天候・イベントの日程を考慮して、下見や本番時期を柔軟に手直ししながらの実施でした。今年はユクノキが蕾をつけたので特別回も計画に入れました。それぞれの担当の企画のよさもあり、参加者は一般参加者も含めて例年より少し増えたと感じています。今後、さらに前進できる研修会が持てるといいですね。

なお、来年度は懸案の近畿連絡会研修会の実施も視野に入れる必要があります、ますます会員の皆さんの協力が必要となります。研修の場所や時期の提案をよろしくお願いします。

以下、5回分の研修の一部写真を載せます。詳細はHP掲載の報告をご覧ください。

- ① 第1回 4月10日(土) 高島市／リトル比良・岳山 (担当・報告；佐々木)
下見 4/3 佐々木、橋木、関澤、小西 参加者 5名 (佐々木、梶谷、高橋、森上、小西)



絹毛のウラジロノキ



ベニドウダン



遠く竹生島

- ② 第2回 5月9日(日) 高島市／朽木の森 (担当・報告；小西)
下見 5/1 佐々木、高橋、橋木、関澤、小西

参加者 11名 (梶谷、高橋、平田、高田、清水、森上、前田、西(2)、小西、梶(一))



熊剥ぎ(スギ)



キンラン



ハンカチノキ

- ③ 特別回 6月12日(日) 奥永源寺／愛知崖 (担当；小西 報告；高橋)
下見 6/2 小西(2) 参加者 7 名 (佐々木、高橋、橋木、関澤、西、森上、小西)



ウラジロマタタビ



ハンショウズル



カマツカハミャクコブシ

- ④ 第3回 10月24日(日) 米原市／きゃんせの森・奥伊吹 (担当・報告；下川)
下見 10/16 佐々木、下川、森上
参加者 10 名 (高橋、下川、高田、平田(2)、橋木、関澤、上萩、小西、高森(一般))



ツノハシバミ



乳銀杏(諏訪神社)



カツラの大木(吉槻)

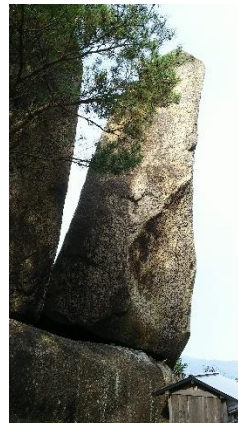
- ⑤ 第4回 11月21日(日) 湖南市／三雲城址 (担当；安田 報告；高橋)
下見 11/11 安田、高橋、橋木、関澤、小西
参加者 6 名 (高橋、関澤、森上、小西、高橋(一般)、安田(体調不良により出発地迄))



タマミズキ



異形のユズリハ



八丈岩

～フィトンチッド研修会開催報告～

高橋 優

令和3年12月18日(土)、大津市打出浜の「コラボしが21」で、滋賀会主催のフィトンチッド研修会を近大名誉教授の野村正人氏を迎えて開催しました。フィトンチッドは植物から放出される揮発性物質で抗菌、殺菌作用を持ち、植物が細菌や微生物から身を守るために作り出す化学物質です。その作用は人間にとっても効能があり、抗菌、消臭、リラクゼーション、アンチエイジングなど様々な恩恵をわれわれにもたらしてくれます。森林にはフィトンチッドがあふれており、森林インストラクターにとっては基本知識のひとつです。

講師を務めていただいた野村教授は特別顧問をやっておられるフィトンチッドジャパン(株)の紹介です。フィトンチッドジャパンとの交渉や日程調整、会場選定、案内状作製などもろもろの準備を佐々木会長にやっていただきました。案内は滋賀会と京都会、「やまのこ」の関係者に送りましたら多くの参加申し込みがあり、計25名の方に受講していただきました。

講義はフィトンチッドの基本的な説明から始まり、研究経験や動物実験の結果から解明された専門的な話まで多岐にわたりました。フィトンチッドは水蒸気蒸留などの抽出により製造されていますが、フィトンチッドには有機化合物の特徴である異性体が多すぎるため人工的に合成することができないことを物質の化学構造式を紹介しながら説明されました。

講義後の質疑応答にもたつぷりと時間を取っていただき、丁寧に質問に答えておられました。

最後に、わたし高橋が研修会で学んだことを羅列すると；

- ・フィトンチッド成分が土中で化学変化しアレロパシーを起こす
- ・アグロフォレストリー：林業(果樹)と畑作を並べると相乗効果あり
- ・森のフィトンチッドは樹木の活動が盛んな6～8月が多い。葉に多い
- ・森林浴の効果の持続はマウスの実験では20日間
- ・ラットのストレス実験で、血圧を下げる、胃潰瘍を防止する効果あり
- ・インフルエンザに罹りにくくする効果あり
- ・総ヒバ造りの家には3年間、蚊が入ってこない
- ・木材のカビ発生を抑える効果はあるが、発生したカビへの効果は少ない

などなど



編集後記

会報第 29 号をお届けします。

2 年続きのコロナ禍ですが、「こども水源の森サミット」「比良比叡トレイル協議会ガイド指導」「フィトンチッド研修会」と定例外の事業を実施できたのは 2021 年度の収穫だと思います。緑の少年団サポート事業や滋賀会の研修も例年通りこなせています。29 号も無事発行できました。読後感などお知らせいただければありがたいです。

ではいい年をお迎えください。

(高橋)